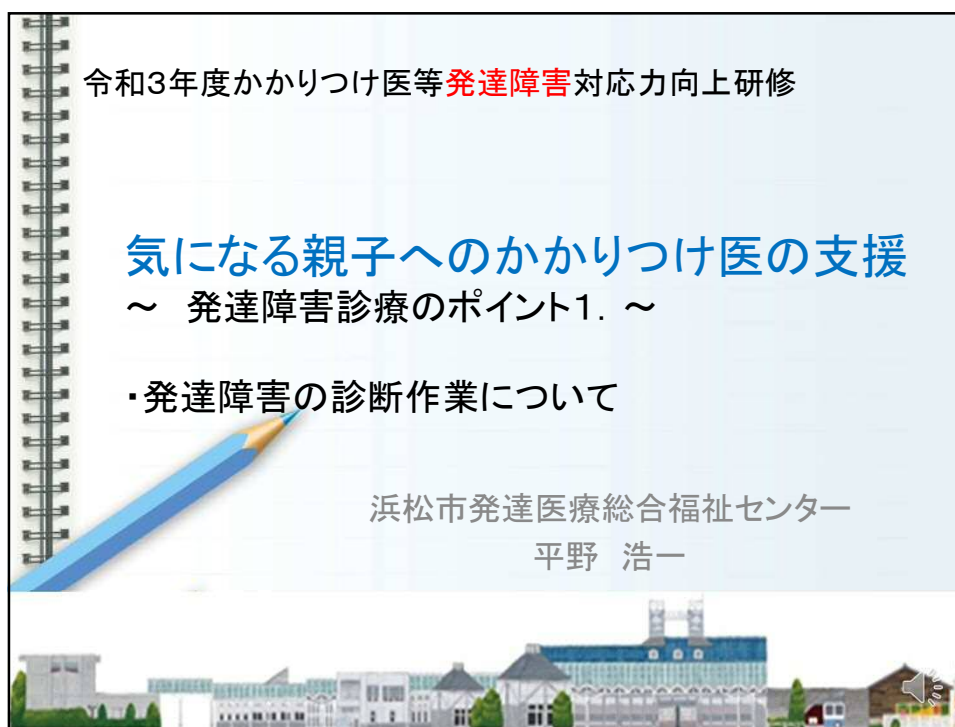


令和3年度かかりつけ医等**発達障害**対応力向上研修

気になる親子へのかかりつけ医の支援
～ 発達障害診療のポイント1. ～

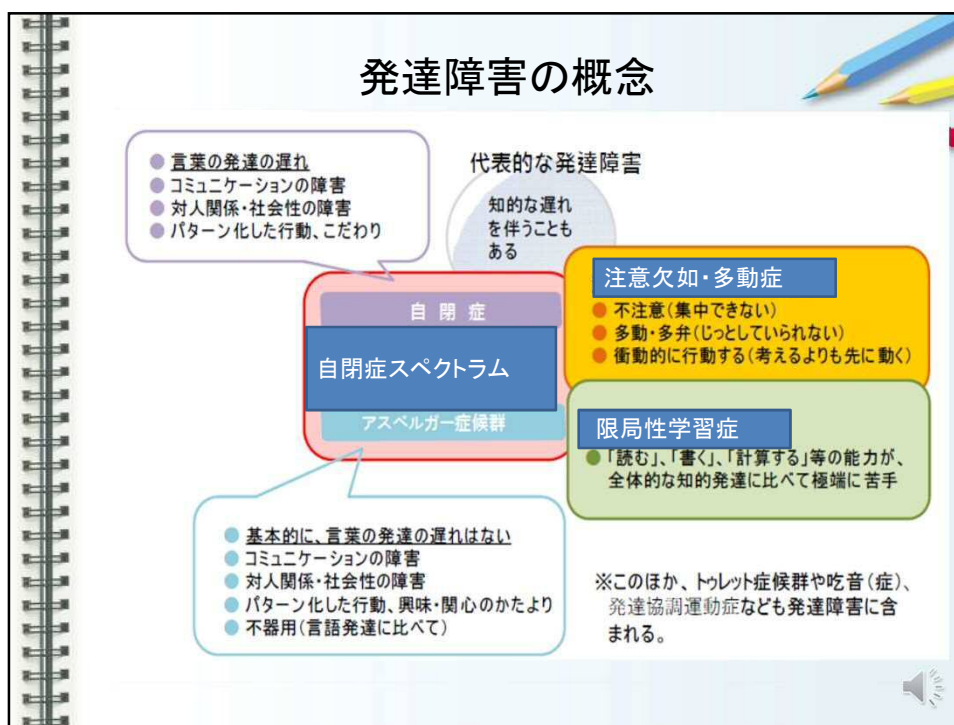
・発達障害の診断作業について

浜松市発達医療総合福祉センター
平野 浩一



発達障害の診断作業





診断作業に入る前に

- ・「白黒はっきりさせたい」と言ってこられる家族は多いですが実際には診断されると思っていない、あるいは違う診断がつくと思ってこられている方もいます
- ・多いのはADHD(注意欠如/多動症)や限局性学習症の診断がつくと想定してこられて、実はASD(自閉症スペクトラム)や知的発達症の診断がつく場合です
- ・診断作業を始める前に、本当に診断を希望しているのか確かめておく必要があります。親が診断に納得できないとその告知は子どものためにならないか、逆に子どもの状況をより錯綜させてしまうことがあります

診断作業

- 発達障害の診断は、
医師による診察所見、
心理検査結果、
現在の生活状況についての親や関係者からの
情報、
発達歴など

を総合的に勘案して医師が行うものとされています。

- 典型的なケースであれば、あまり迷わず診断できると思います



診断に迷うのは？

診断に迷う理由は以下のような場合です

- 親からの情報の信用度が低い
- 保育園、家庭、外出先など場所により様子が大きく異なる
- 発達障害を示唆する特徴はあるが、程度が軽く、量が少ない
- 不適切養育がある



診断に迷う場合は

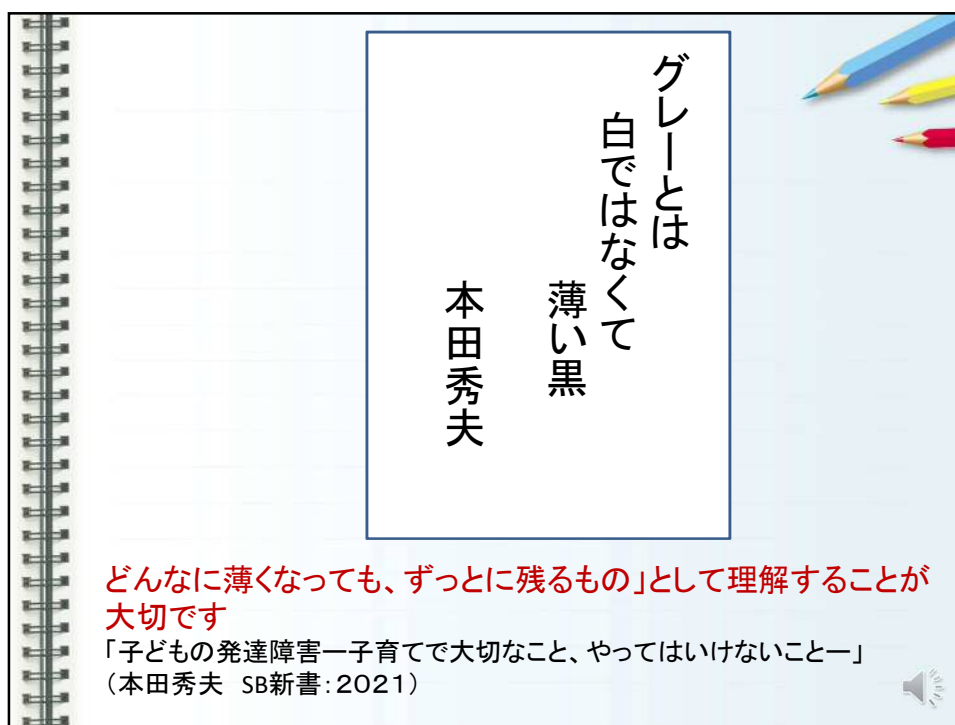
- ・できるだけたくさんの情報源から情報を取
する
- ・マンツーマン、子どもがたくさんいる場面など
多様な状況の情報を集める
- ・年齢が5歳以下なら、小学1年になるまで診断
作業を保留する
- ・トラウマ症状や愛着の問題(マルトリートメント
など)を評価する
- ・最後まで迷ったら、患者さんと家族の利益
になる診断名をつける



グレーゾーン診断はよくない

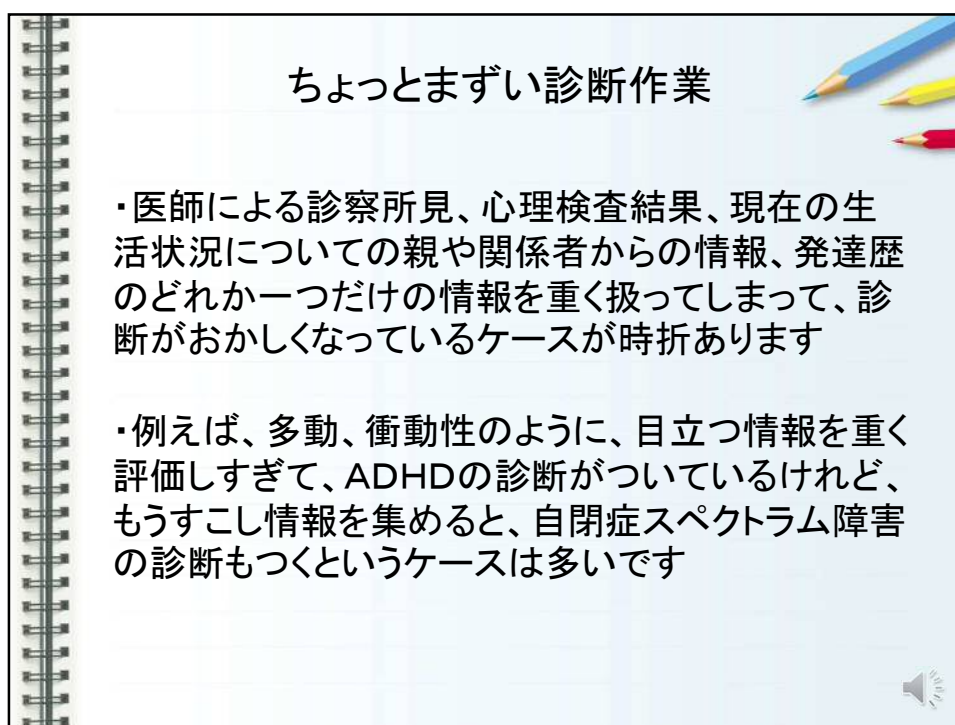
- ・診断に迷った医師が避けるべきなのは、
「グレーゾーンです」と親に伝えることです
- ・グレーゾーンと言われると、親は「うちの子は
発達障害ではない」と思ってしまいますし、
学校やその他発達障害支援機関からの支援を
得ることが難しくなります
(支援を妨げてしまうことになります)
- ・「診断のための情報が足りていない」
「診断を確定する自信がない」場合にはグレー
ゾーンと伝えるべきではありません





グレーとは
白ではなくて
薄い黒
本田秀夫

どんなに薄くなっても、ずっとに残るもの」として理解することが大切です
「子どもの発達障害—子育てで大切なこと、やってはいけないこと—」
(本田秀夫 SB新書:2021)



ちょっとまずい診断作業

- ・医師による診察所見、心理検査結果、現在の生活状況についての親や関係者からの情報、発達歴のどれか一つだけの情報を重く扱ってしまって、診断がおかしくなっているケースが時折あります
- ・例えば、多動、衝動性のように、目立つ情報を重く評価しすぎて、ADHDの診断がついているけれど、もうすこし情報を集めると、自閉症スペクトラム障害の診断もつくというケースは多いです

ちよつとまずい診断作業.1

- ・被虐待児が発達障害児と同じような問題行動や症状を呈することがあることが知られています
- ・多動、衝動性、不注意が目立つ子どもをADHDとだけ診断して、不適切養育や虐待を見逃してしまう場合もあります
- ・本人のけが、アザ、身なり、親の言動などが気になる場合は、診断に必要なと親に断ったうえで、保育所、幼稚園、学校から情報を得るようにしましょう



ちよつとまずい診断作業 .2

- ・幼稚園や保育園ではあまり問題が目立たず、家でばかり問題行動が見られる子どもの場合、発達障害ではなく、親の養育がまずいだけ、と誤って判断してしまうことがあります
- ・家の外では、すべてをがまんし、家でそのうっぴんを爆発させていると思われる、発達障害児をよくみかけます。「外面」のいいタイプです



ちょっとまずい診断作業 .3

・この状況で、親の養育がまずいと判断して伝えると、親は追い込まれ、子どもも苦しくなりますから、発達障害の診断をつけてあげたいところです

・とはいえ、親の養育に本当に問題がある場合も時にあります。判断に迷ったら専門機関に紹介しましょう



まとめ

- ・発達障害の診断作業のうえで注意したいことをあげました
- ・診断に迷う場合はできるだけたくさんの情報を集めることが大切です
- ・「グレーゾーン」という言葉は、「発達障害ではない」という理解につながりやすく、子供が支援から遠ざかってしまうので使わないように心がけましょう
- ・判断に迷いが続く場合は専門機関に紹介しましょう



参考

- 本講義は
令和3年度 第2回発達障害者支援研修:指導者養成
研修 パートⅡ
(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究セン
ター 精神保健研究所)
「初心者のための発達障害診療の心得」
兵庫県立 ひょうごこころの医療センター
児童精神科 木下 直俊 先生の資料を中心に一部
改変して作成しました

